

中学校音楽科学習指導案

下都賀地区初任者研修会、中学校授業研究会として大平中学校大阿久靖子教諭が行ったものである。この授業は、生徒の意欲的な活動が見られ、音楽科の学習指導（授業）を成立させるための前提・充実しておくべき諸項目がしっかりとできていたものである。

1 題材名 歌詞の内容を生かし、響きのある美しい発声による全体の響きに調和させた合唱表現の工夫

2 題材目標

- (1) 歌詞の内容を生かして合唱表現をする。
- (2) 美しい響きの発声により全体の響きに調和させて合唱する。
- (3) リズムや和声の働きを理解して表現を工夫する。

3 教材 『君とみた海』

4 指導内容 指導要領 2, 3年生の表現ーア、イ、エ、キ

・学習指導要領との関連

本単元は合唱コンクールを目標とし、学級での協調をはかりながら、なおかつ音楽を表現する楽しさや表現力の技能の向上を目指すものである。第1学年の「音楽表現の豊かさや美しさを感じ取ること」を基盤に発展性と深まりのある学習をねらいとし、創造的な表現の能力が高まるすることを目的としている。これは、学習指導要領第2・3学年の目標「楽曲構成の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創造的に表現する能力を高める。」に基づくものである。

5 題材の評価規準

題材の目標	音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能
歌詞の内容を生かして歌唱表現を工夫する。	歌詞の内容に関心を持ち、自己のイメージや感情を生かして歌唱表現をすることに意欲的である。	歌詞の内容に関心を持ち、自己のイメージや感情を生かして歌唱表現を工夫している	歌詞の内容に関心を持ち、自己のイメージや感情を生かして歌唱表現をする技能を身に付けている。
美しい響きの発声により、全体の響きに調和させて合唱をする。	正しい発声や全体の響きを意識して意欲的に合唱表現をする。	全体の響きの調和の中で声部の役割を生かす表現の工夫をしている。	全体の響きの調和の中で声部の役割を生かして合唱表現をする技能を身につけている
リズムや和声の働きを理解して表現を工夫する。		リズム、和声の働きを総合的に知覚し、それらを生かした表現を工夫している。	

6 題材について

(1) 指導観

中学校最高学年である3年生では、楽曲の仕組みやそこから生み出される豊かさや美しさを感じ取り、それを表現、創造していく力を養い高めることを最終目標としている。そこで基本的な発声を習得しながら、美しい響きを創り上げ、調和のとれたハーモニーを完成させたい。また特徴あるリズムや曲想も理解し、歌詞の内容を生かした合唱表現も心がけさせたい。そして同時に、自分だけでなく他のパートとのハーモニーを聴きあう態度も養わせ、友人を認め合い協調する心や、学級で一つの作品を作り上げる充実感も味わわせたい。

(2) 学校課題との関連

学校課題は『「確かな学力」の定着を図る教科指導の工夫』をテーマとしている。それに対して音楽科では、発声の基礎練習を繰り返すことで音楽活動の基礎的な能力を伸ばさせたいと考えている。また表現活動を通して、表情豊かに音楽を愛する気持ちを養わせることで学校課題に迫りたいと考えている。

(3) いきいき栃木っ子 3 あい運動との関連

合唱とは一人の力では絶対に成し得ないものであるので、練習時より互いに協力し、助け合い励まし合いながら学習することで更に友達の良さを感じ取り、一つの作品を創り上げる喜びに変わっていくものである。こうした活動を通して、達成感・成就感を味あわせながら 3 あい運動（学びあい、喜びあい、励ましあい）に迫りたい。

(4) 人権教育との関連

個々の目標、課題に自ら進んで取り組ませながら、互いに認め合い、協力しながら学習を進ませたい。また、音楽の苦手な生徒にも励ましの言葉を通して授業に意欲的に参加する気持ちを養わせたい。

(5) 生徒の実態

素直で前向きな学習態度の生徒が多い。特に女子は音楽が好きで得意な生徒が多く、音楽的な理解や表現力も高い傾向にある。対して男子は比較的おとなしいため、なかなか自己表現ができない。それに比例して声をしっかり出す、音程を正確にとるという事も苦手意識があるようだ。今回は合唱コンクールという、クラスの協力のもと、一つの曲を仕上げる場面において、3年生としての自覚を持ち、主体的に表現ができるような授業を展開したい。

(6) 指導計画・評価計画

題材の指導計画と評価計画 題材名 「混声合唱の表現を工夫しよう」

(6時間扱い) 3学年

題材目標	・美しい響きのある発声により全体の響きに調和させて合唱する。 ・リズムや和声の動きを理科して表現を工夫する。 ・歌詞の内容を生かして合唱表現をする。				曲名	・各クラスによる選曲 (混声三部合唱)
月時間	学習活動・指導上の留意点	評価の観点		B 評価規準 (評価の方法)	A 十分に満足できる状況	C 努力を要する生徒への指導の手立て
		感應	感受			
5月	・声部の役割と全体の響きを意識して意欲的に合唱表現させる。	○		・歌詞の内容に興味を持ち自己のイメージや感情を生かして歌唱表現をする。 ・正しい発声や全体の響きを意識して合唱表現をする。	・豊かな合唱のハーモニーを目指して、主体的に合唱する。 ・歌詞の内容を理解し全体を感じながら意欲的に歌唱表現しようとする。	・クラスの一員として参加している喜びを感じさせる。
6月	・全体の響きの調和の中で声部の役割を生かす表現の工夫をさせる。	○		・歌詞の内容に興味を持ち自己のイメージや感情を生かして歌唱表現の工夫をする。 ・声部の役割を生かす表現の工夫をする。 ・歌詞の内容に興味を持ち自己のイメージや感情を生かして歌唱表現をする技能がある。 ・声部の役割を生かす表現の技能がある。	・ハーモニーの働きを理解し、全体の響きを感じた表現を工夫することができる。 ・各声部のかかわりを理解してまとまりのある表現をすることができる。 ・豊かなハーモニーを味わい、各声部の旋律の働きを感じた表現ができる。	・同じパートを担当している生徒からの支援を受け、楽しく合唱させる。 ・自分のパートの流れを感じさせる。
本時	・全体の響きを聴きながら声部の役割を意識した合唱表現をさせる。		○			

7 本時の指導

(1) 目標

- ・響きのある歌声を目標とさせ、集団としてまとまりのある音色が出せるように工夫させる。
- ・ハーモニーやリズムの変化により曲趣が生かされることを理解させる。
- ・歌詞の内容を理解させ、他の声部を聴きながら響きに解け合った合唱をさせる。

(2) 人権教育の視点

合唱コンクールの練習を通して、自分や友人の立場を理解・認識し、互いに協力し合いながら主体的に活動する態度（実践力）を育てたい。

(3) 生かしたい生徒

- A 身体的な理由で筋力がないためなかなか思うように表現活動に関われない。また、本人も音楽についての興味関心が低く、合唱などでも口を開けることができないことが多い。学級の一員である意識を持たせ、少しでも自ら参加する意欲を高めさせたい。

(4) 学習活動における具体的評価規準

豊かなハーモニーを目指して合唱しようとする。（音楽への関心・意欲・態度）
各声部のメロディーを理解した合唱表現を工夫しようとする。

（音楽的な感受や表現の工夫）

歌詞の意味を感じ取り、ハーモニーの特徴を生かして美しい響きで合唱しようとする。（表現の技能）

(5) 展開

(5) 展開(第5時)
*努力を要する生徒への手だて

人権教育上の配慮

具体目標	時間	学習活動内容	教師の支援	評価基準(評価方法)
・発声を通して学習意欲を高める。	3 5	1 授業の始めに必ず行っている基礎発声をリーダーの合図とともに全員で行う。 (挨拶・出欠確認) 2 「風の中の青春」を合唱する。	・正しく口の形や姿勢などアドバイスを加える。 全員が進んで参加できる雰囲気*を作らせる。 ・男声、女声の音程や発声発音を確認し、美し合唱を心がけさせる。	・興味・関心を持って取り組んでいるか。(観察) ・準備としての合唱ができるか。(観察)
・各個人の本日の目標・課題を確認する。	2	3 本時の内容を聞き、合唱個人練習表の確認・記入をする ・前回記入した「次回の学年課題」の確認 ・「本日の内容・課題」の記入	・各個人で記入・確認ができるかそれでは確かめさせる	・本時に対する取り組み姿勢ができるか。(評価カード)
・前時までの確認をする。 ・意欲ある歌唱・合唱を心がける。	10	4 前時までの復習をする。 各パートに分かれて歌詞同唱をする。 全員で二部合唱をする。 ハーモニーの付いたところを再度練習する。	・音程の確認をし、前回までの内容を思い起こさせる。 *自分のパートの流れを感じさせる。 *同じパートの生徒の支援を受け、楽しく合唱させる。	正しく歌っているか。 口出し早いか。 意欲を持って歌っているか。 (鑑)
・旋律・歌詞の特徴を感じ取らせる。	25	5 歌詞の意味を感じ取り、強弱や音程の仕方を工夫する。 模範唱(CD)を全員で聴く ↓ パートごとの話し合い ↓ 発表	・聴きながらポイントになる部分にチェックを入れるよう指示を与える。 パートで協力した話し合いができるよう助言する。 ・一番印象的だったところはどこかなど、話し合いのポイントをアドバイスする。 ・互いの発表がプラスになるように発表を駆けさせ、確認させる。	・真剣に曲が聴いているか。(楽譜) ・協力して話し合いに参加できているか。(観察) ・友人の発表を聴き、大切なところにチェックを入れることができたか。(鑑)
・話し合いを生かした合唱をする。	4	6 全員で二部合唱をする。	・発声に気をつけさせ、まとまりのある合唱を心がけさせる。 ・話し合いを生かし、強弱や流れを感じさせるようにする。 *クラスの一員として参加している喜びを感じさせる。	・まとめとしての合唱ができたか。(観察) ・話し合いを生かすことができたか。(観察)
・本時のまとめをする。	1	7 合唱個人練習表に自己反省、次回の課題総合評価を記入する。	・本時の反省ができたか確認させる。	・次回の学年課題をそれぞれ確認できたか。(評価カード)

8 成果と課題

(1) 授業成立のための前提となる基盤づくり

生徒同士の学び合いの場面で、こだわりなく自分の感性に基づく意見が出されいるとともに、周りの友達も素直にその意見を受け止めた望ましい様子が見られ、良好な生徒同士の人間関係が感じられた。

先生自身の発言や態度が明るくさわやかで前向きでとても音楽的であり、生徒たちからの感性に基づいた様々な意見にしっかり耳を傾け、好意的に受け止めどの意見も否定的に扱うことなく生徒に自信を持たせるように努めていた。

教室環境も音楽を学ぶ、合唱に取り組むのに適したピアノやステレオの配置や机の撤去、指導内容にふさわしい生徒の学習形態をとっていた。

(2) 授業中の指導について

視点 1 「学習主体を生徒に置いて、教師は支援の立場に立てているか。」

教師主導型であるが生徒の意見をよく取り上げて、それを生かしつつ指導しようという意志が感じられた。また、生徒同士で話し合いをする時間をうまく設定し、学習が生徒主体で行われている場面も設定されていた。合唱指導という集団による表現を追求する学習では、そんならざるを得ない面もある。すべてを個別の主体的な学習とすることは難しいが、そのような限られた状況の中でできる限りの努力をされた。

視点 2 「目標標準拠評価を生かした個に応じた指導をしているか。」

目標標準拠評価の基となる本時の目標が明確に示されているが、生徒一人一人が目標を自覚したか、今日はこの点について頑張るんだ、この観点で先生は私たちの学習状況を評価してくれるんだという意識を全員が共通的にもっていたかは十分ではないと思われる。

(3) 音楽科の本質的な部分にかかる学習の追求について

授業中の指導について

感受を生かした表現の工夫を実際の音として実現するための歌唱・合唱の技能にやや重点をかけながら、うまく問答法によって生徒の感受を引き出し、それを表現に生かすようにし向けていた。今後感受中心に学習するのであれば、発言は、基本的に全員ができるよう、まず自分なりに感じ取ったことをメモさせてみるようにして、全員が何らかの概ね満足な感受に至っているかどうか話し合う前に見届けるようにすることが一人一人に定着を図るという学校課題実現に必要かと思われる。

指導計画の作成や準備について

指導計画（学習指導案）はよく検討され、綿密に書かれている。全体的には、しっかり書き込もうという意志がよく伝わってくる力作である。